

# 「電気づくりは“故郷で挑戦し続けることの象徴”です」

(株)森のソーラー  
古河太陽光発電所(茨城県古河市)

39.6kW



(株)森のソーラー  
代表取締役  
やすし  
高橋恭嗣さん

「太陽光による発電と原木しいたけの栽培は、とても相性がよいんです」。コナラやクヌギを“ほだ木”にしいたけの菌を植え付け、「原木しいたけ」を生産してきた高橋<sup>やすし</sup>恭嗣さん。2011年の原発事故で、すでに買い入れていた約14万6千本の原木は廃棄に。現在、原木が立ち並ぶ“ほだ場”は土の上にシートがかけられるなど、可能な限り放射性物質が混入しないよう対策が講じられています。放射性物質の影響を受けない屋内で森の環境を再現した“ほだ場”の頭上には太陽光発電のパネルを設置しました。「風味豊かな原木しいたけをこの地で作ることを決意した私たちにとって、自然のエネルギーで電気を作ることは単に新しい事業を始めることを意味しません。“故郷で挑戦し続ける”ことの象徴でもあるんです」

